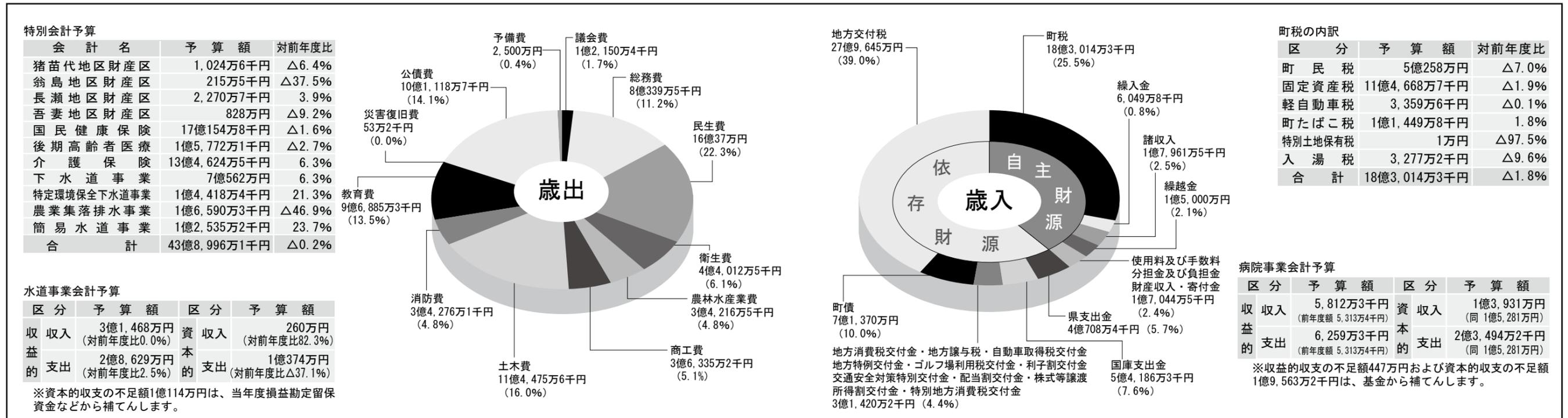


一般会計予算は

71億6,400万円



健全で安定した町の財政を目指した二十三年度の予算が決まりました。一般会計当初予算の総額は、七十一億六千四百万円と、前年度に比べ四億五千万円（6・7%）増加しています。全国的に厳しい財政状況の中、予算編成にあたっては財源を効率的に配分し、さまざまな施策を進めます。二十三年度予算のあらましについてお知らせします。

歳入は大きく「自主財源」と「依存財源」の二つに分けられます。「自主財源」とは、町が自主的に確保することができる財源のことです。町の主要な財源の一つである町税をはじめとして、使用料、手数料、分担金、負担金や財産収入などが挙げられます。一般会計の主要な財源の一つである町税は十八億三千四百三十三円（前年度比六千三百三十二万一千円（減）で歳入全体の25・5%を占めています（内訳は上の表のとおり）。このほか、財政調整基金などからの繰入金が一億四千九百八十八円（前年度比五千三百七十九万二千円（増）、雑収入などの諸収入が一億七千九百六十一万五千円（増）を占めています。

歳入は大きく「自主財源」と「依存財源」に分かれ、自主財源が約66・6%、依存財源が約33・4%を占めています。自主財源は、町税18億3,014万3千円（25・5%）、地方交付税27億9,645万円（39・0%）、町債7億1,370万円（10・0%）、地方消費税交付金・地方譲与税・自動車取得税交付金・地方特例交付金・ゴルフ場利用税交付金・利子割交付金・交通安全対策特別交付金・配当割交付金・株式等譲渡所得割交付金・特別地方消費税交付金3億1,420万2千円（4・4%）、繰入金6,049万8千円（0・8%）、諸収入1億7,961万5千円（2・5%）、繰越金1億5,000万円（2・1%）、使用料及び手数料・分担金及び負担金・財産収入・寄付金1億7,044万5千円（2・4%）、県支出金4億708万4千円（5・7%）、国庫支出金5億4,186万3千円（7・6%）です。

前年度からの繰越金が一億五千万円など、自主財源の合計は二十三億九千七十万一千円、歳入全体の33・4%となっています。「依存財源」とは、国や県から交付される財源のことで、地方交付税、国庫支出金、県支出金、町債などが挙げられます。依存財源では、全体の39%を占める地方交付税が、二十七億九千六百四十五万円（前年度比一億九千万五千円（増）、町債は認定こども園建設事業などを見込み、七億一千三百七十万円（前年度比一億一千五百九十万円（増）となりました。なお、町債の借入れに当たっては、交付税措置のある有利なものを選ぶなど、負担が軽減できるように努めました。このほか、国・県の負担金、補助金や地方消費税交付金など、依存財源の合計は四十七億七千三百二十九万九千円となり歳入全体の66・6%を占めています。

歳出では、厳しい財政状況の中、限られた財源の効率的な活用に努めます。行財政改革の推進により事務事業を徹底的に見直し、経費の節減・合理化を進める一方、重点施策を選別して編成しました。歳出の22・3%を占める民生費は、社会福祉や児童福祉などに使われる費用で、十六億三十七万円（前年度比一億六千八百七十八千円（増））となっています。これに続くのが、町道や町営住宅の整備・管理、除雪などの費用のための土木費で、全体の16%、十一億四千四百七十五万六千円（前年度比三千二十九万六千円の増）。

そのほか衛生費が、四億四千二百五十五千円（前年度比二千六百九十九万九千円（増））、町の全般的な管理に使われる総務費が全体の11・2%、八億三千九百九十五千円（前年度比八千九百四十八万八千円の減）。

そのほか衛生費が、四億四千二百五十五千円（前年度比二千六百九十九万九千円（増））、町の全般的な管理に使われる総務費が全体の11・2%、八億三千九百九十五千円（前年度比八千九百四十八万八千円の減）。

農林水産業費が、三億四千二百六十六万五千円（前年度比三千九百八十九万二千円（増））。議会費が一億二千五百四十万四千円（前年度比二千九百六十五万九千円（増））などとなっています。

二十三年度の主な事業

- ▽認定子ども園整備事業費 二億七千三百七十八万七千円
- ▽社会資本整備総合交付金事業費 七千六百四十三万二千円
- ▽鶴峰住宅建設事業費 七千五百八十八万一千円

二十三年度の主な事業

- ▽認定子ども園整備事業費 二億七千三百七十八万七千円
- ▽社会資本整備総合交付金事業費 七千六百四十三万二千円
- ▽鶴峰住宅建設事業費 七千五百八十八万一千円